

**農業環境工学関連学会 2026 年合同大会にて
「持続可能な営農型太陽光発電の実現に向けた研究動向」を開催**

資源利用研究領域農業施設グループ
土屋 遼太

9 月 1 日～3 日に北海道大学で開催された農業環境工学関連学会 2026 年合同大会において、農村工学研究部門の研究者をオーガナイザーとしたオーガナイズドセッション「持続可能な営農型太陽光発電の実現に向けた研究動向」（9 月 2 日）が開催されました。

急速に注目を浴びている営農型太陽光発電ですが、残念ながら発電に重きを置かれ、農業生産の面が軽視されている事例が見られます。こうしたなか、日射量が低減する太陽光パネルの下での農業について、作物の生産性、経済性、持続性の担保が必要です。

本セッションはこうした営農型太陽光発電に関する背景に対して、先端の研究成果を踏まえて持続可能な営農型太陽光発電のあり方を議論することを目的に開催されたものです。当日はヨーロッパ（スペイン・フランス）からの講演を含む以下の 7 題目が報告されました。

1. 営農型太陽光発電施設下の風速計測に関する検討

於保拓高、土屋遼太、森山英樹、石井雅久、関航太郎（農研機構農村工学研究部門）

2. 地理情報システムを利用した郡山市における営農型太陽光発電の適地選定に関する研究

Pawita Bunme, Takumi Takashima and Takashi Oozeki（産業技術総合研究所再生可能エネルギー研究センター）

3. 日本国内における営農型太陽光発電設備の架台設計の類型化

馬上丈司（千葉エコ・エネルギー株式会社）

4. Agrivoltaics under Mediterranean conditions within the European SYMBIOSYST project

Ana Ramos, Ariadna Sánchez, Irma Roig, Anna Gras, Núria Carazo, Gil Gorchs (Universitat Politècnica de Catalunya – BarcelonaTech, Spain), James McDonald (ENGIE Lab, France), David Caballero, Marcel Macarulla, Ramon Salcedo (Universitat Politècnica de Catalunya – BarcelonaTech, Spain)

5. 水田営農型太陽光発電の現状と課題

谷口智之（九州大学大学院農学研究院）、迫田美和（パシフィックコンサルタンツ株式会社）、豊田舜一郎（九州大学大学院生物資源環境科学府）、山本健志（九州大学大学院工学府）、岩田幸良（九州大学大学院農学研究院）

6. 太陽電池アレイ下の水稻生育環境調査

高島工、大関崇（産業技術総合研究所再生可能エネルギー研究センター）

7. 営農型太陽光発電における水稻収量・品質と光環境の関係：山形県内水田での3年間実証

栞原良樹、茄子川恒（山形大学農学部）、辰己賢一（名古屋市立大学データサイエンス学部）

全講演終了後の総合討議では九州から東北まで全国に現場をもつ様々な研究者の間で情報交換が行われました。そのなかで、営農型太陽光発電を持続的に展開していくためには依然として太陽光パネル下での作物栽培に関する知見・研究事例が不足していることが問題点として共有されました。また、農林水産省が提示している「望ましい営農型太陽光発電」(<https://www.maff.go.jp/j/study/250609.html>)についても様々な視点から意見が交わされ、引き続き学術の立場から作物栽培や構造を含む様々な研究を積極的に行っていくことで、行政の意思決定を支えていく必要があるという結論に至りました。

農村工学研究部門では農山漁村エネルギーマネジメントシステム（VEMS）を中心に、営農型太陽光発電を含む、地域エネルギーの地産地消技術に関する研究を今後も継続して実施してまいります。



農工研・於保研究員の講演



会場の様子